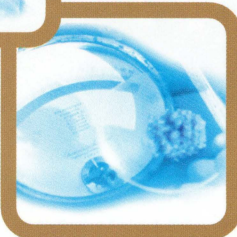
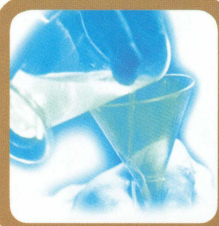


あなたの瞳に未来が映る

ISABELLE HUPPERT CHARLES BERLING Les palmes de M. Schutz

de CLAUDE PINOTEAU avec PHILIPPE NOIRET- CHRISTIAN CHARMETANT-PHILIPPE MORIER=GENOUD-MARIE=LAURE DESCOUREAUX
adaptation JEAN=NOËL FENWICK-CLAUDE PINOTEAU-RICHARD DEMBO dialogues JEAN=NOËL FENWICK musique VLADIMIR COSMA
image PIERRE LHOMME A.F.C. montage MARIE=JOSÈPHE YOYOTTE son PAUL LAINÉ costumes CORINNE JORRY décors JEAN=JACQUES CAZIOT
directeur de la production PIERRE SAYAG une coproduction L FILMS- FRANCE 2 CINÉMA-FRENCH PRODUCTION
avec la participation de SOFINEUROPE et de CANAL+ présenté par EMMANUEL SCHLUMBER



キュリー夫妻 その愛と情熱

1998~99「日本におけるフランス年」公式プログラム作品
キュリー夫妻ラジウム発見100周年記念事業委員会推薦作品
文部省選定作品(少年・青年・成人対象)

主演:イザベル・ユベール/シャルル・ベルリング/フィリップ・ノワレ 製作:エマニュエル・シュランベルジュ 監督:クロード・ピノー
脚本:ジャン=ノエル・ファンウィック 撮影:ピエール・ロム 音楽:ウラジミール・コスマ 監製:アルシネタラン



19世紀末のパリ ふたつの輝ける綺羅星は夢を追いかけた

キュリー夫妻 その愛と情熱



人類の進歩はたくさんの“偉人”によって成されてきた。1903年、ラジウム発見によりノーベル物理学賞を授与されたキュリー夫人も、その1人である。彼女の愛と苦闘のストーリーは、どれだけ世界中の人々を勇気づけてきたことだろう。

しかし、ここで描かれるのは、伝説のヒロイン・キュリー夫人ではなく、まさに等身大の“人間・キュリー夫人”。夫ピエールと冗談を交えながら研究を続けたり、自転車で遠出をして緑豊かなフランスの自然と戯れたり、自宅で当時の著名人と心地よい夕べを過ごしたりと、人生を楽しみ生き抜いた姿が軽快なタッチで描かれ、爽やかな感動を呼び起こす。

原作は、フランスの劇作家ジャン＝ノエル・ファンウィックが89年に発表した「シュッツ氏の勲章」（本作の原題も同じ）。本国での大ヒット・ロングランを受けて、本作と同時期に黒柳徹子主演で「喜劇キュリー夫人」という題名で上演される。映画は、キュリー夫妻がラジウムを発見した1898年からちょうど100年目にあたる今年、その偉業を記念する作品としての公開となる。



ラジウム発見の過程に描かれる、2人の真理への情熱と深い夫婦愛



1894年冬、パリ物理化学学校。ピエール・キュリーの研究室に、ポーランド出身のマリー・スクロドフスカが助手として加わることになった。研究室の中では、スラブ風の料理がグツグツと煮込まれ、ポーランドのレジスタンスに送られるダイナマイトが用意されたり、アルコール度数の高いウォッカが蒸留される始末。それでも、ピエールはマリーの素晴らしい科学的素質を見抜くと同時に、女性としての魅力に惹かれ始める。一方、校長のシュッツは、ライバルのピネ教授が自分よりも先に国家教育功労賞を受賞したことが面白くない。名誉を欲する野心家の彼は、ピエールとマリーに革新的な研究レポートを提出させ、科学アカデミーで承認させようと画策する。世俗的な成功に全く無頓着に研究に没頭したい2人は、自らの出世のために無理難題をふっかけるシュッツとギリギリの駆け引きを展開するが……《放射能》《ラジウム》という世紀の大発見の過程で、2人の天才科学者の“揺るぎない愛”が誕生する。

現代のフランス映画界を代表する演技派3人、ここに集結
主人公マリーには、その小柄で華やかな体躯とは対照的に強い信念を持った女性のがまり役のイザベル・ユベール（『ボヴァリー夫人』）。その東欧的な顔立ちと巧みに操るポーランド訛りのフランス語で、等身大の“キュリー夫人”を生き生きと魅力的に現代に蘇らせた。夫ピエールにシャルル・ベルリング（『リディキュール』）。純朴で誠実な科学者の抑えた演技から、妻への深い愛情が観る者に伝わってくる。そして、2人が通う研究室のあるパリ物理化学学校の校長シュッツにフィリップ・ノワレ（『イル・ボスティエノ』）。とんでもない俗物ぶりを前面に押し出しながら、そのユーモラスで愛嬌のある持ち味で不思議と厭味を感じさせない。

本作をフランス特有のエスプリを利かせて上品に仕上げたのは、クロード・ビントー監督（『ラ・ブーム』）。撮影は名匠ピエール・ロム（『シラノ・ド・ベルジュラック』）が担当、ウラジミール・コスマ（『ディーバ』）の軽やかなピアノ旋律が全編を心地よく包み込む。



主演:イザベル・ユベール/シャルル・ベルリング/フィリップ・ノワレ 製作:エマニュエル・シュランベルジュ 監督:クロード・ビントー

脚本:ジャン＝ノエル・ファンウィック/クロード・ビントー/リシャール・デンボ 撮影:ピエール・ロム 音楽:ウラジミール・コスマ 1996年/フランス/ヴィスタサイズ(1:1.85)/カラー/ドルビーSR/104分 配給:アルシネテラン

今秋 京阪神独占ロードショー

〈当日料金〉一般¥1,700/大・高¥1,400/中・小人¥1,000

クリスタ長堀南10番出口すぐ・ソニータワーB1

心斎橋 シネマ・ドゥ

06(251)3789

